



# かけはし



## 第3次地域福祉活動計画策定に向けて

～地域の声よ集まれ～

地域座談会のご報告

くわしくは・・・  
▶▶▶P3～6へ

～目次～

発行

社会福祉法人  
**笛吹市社会福祉協議会**

住所／〒406-0822 笛吹市八代町南 917  
電話／055-265-5182 FAX／055-265-5183

広報「かけはし」には、赤い羽根共同募金の配分金が活用されています。  
発行責任者：社会福祉法人 笛吹市社会福祉協議会 会長 早河正弘



P2 ▶▶ ● 『第9回笛吹市社会福祉大会』開催のご案内

P3～P6 ▶▶ ● **特集** 第3次地域福祉活動計画策定に向けて  
～地域の声よ集まれ～地域座談会のご報告

P7 ▶▶ ● 一宮地区複合的福祉サービス拠点建設事業について  
● 善意の寄付・寄贈の御礼

P8 ▶▶ ● 「ふえふき通信」

# 第9回 笛吹市社会福祉大会



支え合う地域づくりの  
実現を目指して、いま、動きだそう

【日時】

平成29年

2月12日(日)

13時～16時

【会場】

笛吹市スコレーセンター

〒406-0035 山梨県笛吹市石和町広瀬 626-1

私たち笛吹市民は子どもから高齢者まで豊かに暮らせる地域をつくることを目指しています。笛吹市で平成29年3月から始まる新しい介護予防事業では、高齢者が地域での生活を続けるために、専門的サービスに加え、高齢者を含む地域住民が主体的に「互いに支え合う」ことにより生活の支援ができる地域づくりが求められています。

この「支え合う地域づくり」の実現を目指して、第9回笛吹市社会福祉大会を開催いたします。

第1部では、笛吹市の社会福祉の発展に貢献された方々や今後の福祉活動が期待される方々への顕彰を行います。

第2部では、行政、福祉事業者、住民活動の代表者の実践から、私たち一人ひとりが地域で生活する一員として、今後の支え合う地域づくりへの取り組みについて話合います。

- 事前の申込みがなくても参加できます。
- 手話通訳・託児サービスがあります。

第1部

記念式典

表彰状授与・感謝状贈呈

第2部

基調講演・シンポジウム

『支え合う地域づくりの実現を目指して  
～いま、動きだそう～』



講師・コーディネーター

市川 一宏 氏

ルーテル学院大学  
大学院研究科長  
学事顧問・教授

シンポジスト



戸島 義人 氏  
社会福祉法人  
寿ノ家  
理事長



米山 昭美 氏  
一宮町生活支援  
ボランティアの会  
地域リーダー



赤尾 好彦 氏  
笛吹市  
長寿介護課  
課長



小林 絵那 氏  
笛吹市  
社会福祉協議会  
地域福祉課

【お問合せ先】 第9回 笛吹市社会福祉大会 実行委員会（事務局 笛吹市社会福祉協議会）  
〒406-0822 笛吹市八代町南 917 TEL：055-265-5182 / FAX：055-265-5183

主催：社会福祉法人 笛吹市社会福祉協議会

後援：山梨県社会福祉協議会、笛吹市、山梨県共同募金会、笛吹市議会、山梨県社会福祉士会、笛吹市医師会、山梨県精神保健福祉士協会、山梨県介護支援専門員協会、山梨県介護福祉士会、山梨県看護協会、山梨県医療社会事業協会、山梨県ボランティア協会、笛吹市連合区長会、笛吹市民生委員児童委員協議会、笛吹市介護保険事業者連絡会、笛吹市障害者団体連絡協議会、笛吹市ボランティア連絡会、笛吹市老人クラブ連合会、笛吹市観光物産連盟、笛吹ライオンズクラブ、笛吹ロータリークラブ、笛吹市シルバー人材センター、笛吹市体育協会、笛吹市ゴルフ連盟、笛吹青年会議所、山梨県立大学、健康科学大学、帝京福祉専門学校、優和福祉専門学校、甲斐清和高等学校、笛吹高等学校、山梨日日新聞社・山梨放送、NHK甲府放送局、朝日新聞甲府総局、毎日新聞甲府支局、テレビ山梨、エフエム富士（順不同）

# 協社の役割



安心して暮らせる  
幸せあふれる  
まちづくり

- 地域づくり
- 福祉教育
- 災害対応
- 相談

## 第3次地域福祉活動計画策定に向けて ～地域の声よ集まれ～ 地域座談会のご報告



### 地域福祉活動計画とは

皆さんは『地域福祉活動計画』という言葉を目にしたことがあるでしょうか？

「初めて聞いたー」という方や、「言葉自体は聞いたことがあるけれど、内容はよく分からない。」という方が多いのではないかと思います。普段聞き慣れない言葉で、少し難しい印象を受けるかもしれません。

『地域福祉活動計画』は、地域住民が主体となり、社協とともにその知恵・労力・お金を出し合い協力しながら、互いにふれあい支え合っていく「幸せあふれるまちづくり」を目指し活動していくための計画です。

地域福祉活動計画は、笛吹市の地域福祉計画（法律を背景に行政の責任で整備すべき施策を中心にまとめたもの）と連動し、地域の暮らしを支えています。

こんなまちであつたらいいな  
安心して暮らせる  
幸せあふれるまちづくり

これが、笛吹社協の『第2次地域福祉活動計画』のゴールです。

第2次地域福祉活動計画は、平成24年度から平成28年度までの5年間の『地域（笛吹市）』の『福祉（ふだんのくらしのしあわせ）』の『活動』をするための『計画』であり、笛吹社協はまさに今この瞬間も、この計画に沿って活動しています。

第2次地域福祉活動計画は今年度で5年の期間が満了します。そこで、笛吹社協では、平成29年度からの5年間の計画期間とする『第3次地域福祉活動計画』の策定を進めています。

「第3次地域福祉活動計画」の策定委員を下記の方々に委嘱させていただきました。（役職は2016年6月14日現在）

- |                      |        |
|----------------------|--------|
| 笛吹市議会教育厚生常任委員会委員長    | 中村 正彦  |
| 笛吹市保健福祉部部長           | 風間 俊美  |
| 笛吹市連合区長会会長           | 落合 美枝子 |
| 笛吹市民生委員・児童委員協議会会長    | 雨宮 美枝子 |
| 笛吹市ボランティア連絡会会長       | 芦澤 義男  |
| 笛吹市老人クラブ連合会会長        | 風間 義勤  |
| KORENふえふぎ代表          | 星合 深也  |
| 笛吹市障害者団体連絡協議会会長      | 羽田 哲也  |
| 一般市民                 | 志村 直毅  |
| 一般市民                 | 田草川 睦美 |
| 笛吹市社会福祉協議会常務理事       | 橋田 尚美  |
| 学識経験者                | 林 信治   |
| 特別アドバイザー<br>ルーテル学院大学 | 市川 一宏  |
| 大学院研究科長・学事顧問・教授      | （敬称略）  |

### 第一回・第二回策定委員会

第一回の策定委員会では地域住民等に行ったアンケートについて策定委員の皆様と共有し日頃感じている地域の様子や問題など、様々なご意見をいただきました。

第二回の策定委員会では特別アドバイザーである市川一宏先生から『地域福祉活動計画は社協が福祉の向上にどのように貢献すべきかを模索し住民の視点から組み立てた計画を目指したもの』とアドバイスをいただきました。策定委員の皆様と意見交換を行いました。

そして、住民の生の声を集める座談会を開催することになりました。7町の『住民の声』と『住民の思い』を紹介させていただきます。





### 一宮

- ・桃の花は見事に美しい。
- ・夏にホテルが見られる。
- ・地域のつながりがある。
- ・心の優しい人が多い。
- ・ボランティア活動が活発的。
- ・子供たちがみんな素直。
- ・桃の里温泉がある。
- ・買い物しやすい。
- ・介護施設がある。
- ・史跡が多い。(お寺、仏像)
- ・町内を巡回バスが通っている。
- ・交通の便が割と良い。

- ・桃、ブドウの収穫時に多忙で観光客 対応不十分。
- ・「いちのみや」町の名称が市からどんどん消えていく。
- ・地域交流が少なくなっていく。
- ・空き家が増えている。
- ・通学路に歩道がない。
- ・学童が学校から遠い。
- ・公園等の子供やお年寄りのいこいの場が少ない。
- ・巡回バスはあるが利用しにくい。
- ・買い物に困る年寄りが多い。



### 御坂

- ・南アルプスが良く見える。
- ・スキー場がある。
- ・買い物しやすい。
- ・路線バスが走っている。
- ・県立博物館がある。
- ・隣近所の付き合いがある。
- ・リニアが通っている。
- ・近所の人が作物をくれる。
- ・声をかけてくれる人が多い。
- ・公民館活動活発。

- ・留守宅が多い。
- ・空き家が多い。
- ・桃畑がなくなっていく。(春の景色が変わってきた)
- ・大きい病院がない。
- ・子供たちと挨拶しづらい。
- ・道が急、坂道が多い。
- ・子供が少ない。
- ・衣料品店が少ない。
- ・子供を本気で叱る人がいない。



### 石和

- ・温泉施設がたくさんある。
- ・大きいお店が沢山ある。
- ・病院も多い。
- ・駅や高速バス停がある。
- ・子どもたちが元気に挨拶をする。
- ・観光地でイベントが多い。
- ・元気な高齢者が多い。
- ・農業以外に色々な産業がある。

- ・身近な個人商店が少ない。
- ・空き家が増えている。
- ・若い人の自治会への加入が減少。
- ・道路に街灯が少ない。
- ・表札がない家も多い。
- ・地域の活動に参加しない人が増えている。
- ・地域の情報が入手しづらい。



7町の住民が地域の『いいところ』『困ったところ・気になるところ』そして『自分にできそうなこと』『地域の人との支えあいによってできそうなこと』のアイデアを出し合いました!



### 6

『自分にできそうなこと』『地域の人との支えあいによってできそうなこと』を思いつく限り書く。



### 5

町司会と発表者を決める。町の『いいところ』『困っているところ』『気になっているところ』を似ているもの同士にまとめ、表題をつける。(15分)



### 4

次に、ブルーの付箋に町の『困っているところ』『気になっているところ』を思いつく限り書く。(10分)



### 3

ピンクの付箋に町の『いいところ』を思いつく限り書く。(10分)



### 2

自己紹介。グループ名を決める。(5分)



### 1

地域福祉活動計画と町の活動実践について説明。(20分)



### 芦川

- ・すばらしい自然。
- ・ボランティア活動が盛ん。
- ・3月めしなどイベントが楽しい。
- ・近所とのつながりが深い。
- ・年寄りが元気。
- ・意外に都会に近い。
- ・移動販売者が地域をまわっている。

- ・土砂崩れが怖い。
- ・閉鎖的なところがある。
- ・移住者との交流がない。
- ・若者が働く場所がない。
- ・子ども、若者が少ない。
- ・空き家が多い。
- ・病院が遠い。
- ・買い物不便。
- ・道が狭くこわい。
- ・雨量、雪量で道が閉鎖される。
- ・学童保育、中学校がない。



### 春日居

- ・人・サロンが活発だ。
- ・ボランティア活動や行事が活発だ。
- ・地域のつながりがある。
- ・伝統的な行事が連続と続いている。
- ・見守りたいがある。(子どもの安全が守られている)
- ・老人クラブの加入率が市内でNo.1。

- ・ゴミ捨てるルールや犬の散歩のマナーが悪い人がいる。
- ・サロンの参加者減少、固定化。
- ・ボランティアメンバーの高齢化、固定化。
- ・前向きに役員になる人がいない。
- ・異世代の交流の機会が少ない。
- ・公園、子どもが安全に遊べる場所がほしい。



### 境川

- ・寺尾分校の桜がすばらしい。
- ・南甲府ICに近く、交通アクセスが良い。
- ・温泉や公園など交流施設が作られる。
- ・夜景がきれい。
- ・全戸の住民がだいたいわかる。

- ・3地区のつながりがない。
- ・人口減少と高齢化、未婚者も増えている。
- ・農業の衰退による自然環境の変化。
- ・学校、保育園が遠い。(スクールバス対応)
- ・昼間、老人しかいない。
- ・近くにお店がない。
- ・公共交通機関がない。ぐるりバスだけでは不便。



### 八代

- ・人と人、近所、地域のつながりやまとまりがある。
- ・交流する機会や行事がたくさんある。
- ・高齢者が元気でよく稼ぐ。
- ・ボランティアの活動が盛んである。
- ・リニア実験線が見られる。
- ・スマートインターができる。
- ・大きな公園がある。

- ・空き家や休耕地が増えてきている。
- ・若い人の働く場所が少ない。
- ・少子高齢化になっている。また一人暮らしが多くなってきた。
- ・新住民との交流がない。
- ・地区行事が縮小化している。
- ・小児科がない。大きな病院がない。
- ・交通量の増加や道路が狭い。
- ・公共交通の便が悪い。





### 一宮

- ・地域のよさを発信。
- ・SNSの活用いろんな人へ情報を流す!
- ・地域の事に関心を持って協力、参加。
- ・畑の活用方法について農家、地域の人と話し合う。
- ・地域皆で子育て参加。
- ・高齢者や子育てママとの交流! 皆で集まって楽しく語る。
- ・地域ぐるみのあいさつ運動を推進する。

- ・農業を続けていく。
- ・健康でいること。
- ・行事に参加する。
- ・近所との付き合いをする。
- ・家庭菜園として農地を住民に解放する。
- ・いきいきサロンに参加する。
- ・ボランティア活動に誘う。
- ・困ったことの相談にのる。



### 御坂



### 石和

- ・休耕地を借りて野菜を作る。
- ・地域の行事に積極的に参加する。
- ・趣味を生かして仲間作り。
- ・散歩のついでにごみ拾いをする。
- ・通学路で子どもたちに挨拶をする。
- ・地区の行事を隣近所で誘って参加。
- ・近所に野菜や果物を配る。

- ・人とのつながりは声かけから! 大人同士も挨拶を活発にする。
- ・ボランティアの積極的参加。
- ・八代のよさを自慢しよう。広げよう。情報発信。(再発見マップ 掲示物) ⇒移住促進。
- ・高齢者への支援をしよう。(ゴミ出し、話し相手)
- ・環境美化活動の推進。
- ・資源の活用。(エコBOX 空き地 空き家)
- ・公民館活動のメニューの検討、地区の行事に積極的に参加。

### 八代



## 発表

8

作った模造紙に  
(⑤と⑥の2枚)に沿  
ってグループごとに  
発表。

7

はじめに何から取り  
組めそうか具体案を  
発表に向けてグルー  
プでまとめる。(10分)

- ・近所見守り、声かけ、安否確認をする。
- ・近所の人のお買い物ごみだし、雪かきを手伝う。
- ・イベントを企画参加する。
- ・農業等の後継者の育成。
- ・移住定住の条件を整える。(空家、相談窓口、情報発信)
- ・子育て支援、山村留学など市に働きかける。

### 芦川



### 春日居

- ・地域行事には積極的に参加し、地域の人をもっとよく知る。
- ・地域みんなであいさつをする。(まずは家庭から)
- ・見守りたいのたすきを常時かけ、集団登下校の見守りを実施する。
- ・自分にできるボランティアをする。
- ・本を読む子を育てる。(豊かな心を育てるために)



### 境川

- ・買い物を頼んだり、頼まれる関係づくり。
- ・気軽に声を掛け合い、車に乗せてあげる。
- ・神社等の環境美化活動をする。
- ・地域で見守る人を増やす、声掛けをする。
- ・新年会や忘年会を誘い合って続けていく。
- ・災害時の組単位での助け合い。

※地域ごとに出た内容の一部を掲載いたしました。

笛吹市社会福祉協議会 事務局次長 古屋まゆみ

座談会で、皆様から聞かせていただいた声は、地域福祉推進委員会で、各町の活動計画としてまとめ、住民の皆様と共に、具体的に取り組んでいきます。また、笛吹市全体の活動計画策定の基礎資料とさせていただきます。

7つの町の特色は、それぞれに異なりますが、「自分の住む町を良くしたい」と願う住民の皆様への思いは、同じです。その思いこそが、「幸せあふれるまちづくり」を実現させていく原動力となります。社協も、住民の皆様への思いをしっかりと受け止めさせていただき、これから一緒に地域づくりに臨んでいきます。よろしくお願ひします。

## これから



福祉総務課 飯島さん

市民の皆様の「地域愛」に感激しました!一人ひとりが地域のことを真剣に考えている様子がひしひしと伝わってきた座談会でした。

「誰もが安心して住める笛吹市」に向けて「PART3」が揃ってきた…。次は、みんなで組み立てる作業だね。



長寿介護課 有賀さん

「すごい。誰もが安心して住める笛吹市」に向けて「PART3」が揃ってきた…。次は、みんなで組み立てる作業だね。

## 座談会を終えて

笛吹市役所の多くの職員の方もいち住民として参加していただきました。

# 一宮地区複合的福祉サービス拠点建設事業について

笛吹市社会福祉協議会は、「安心して暮らせる幸せあふれるまちづくり」を基本理念として、住み慣れた地域において、高齢者、障がい者、児童、地域住民等が集い、誰もが分け隔てなく支え合い、その人のニーズに応じた支援が受けられる共生型社会の構築を推進しています。

この度、一宮地区の福祉拠点として複合的福祉サービス施設を建設いたします。この施設においては、**要介護者、障がい者を分け隔てなく受け入れ、制度に基づく専門サービスを提供することから、地域福祉の拠点としての居場所の機能を担う機能まで、共生型の多世代交流・多機能の福祉拠点とし、この施設を中心とした地域づくりに取り組みます。**

## デイサービス



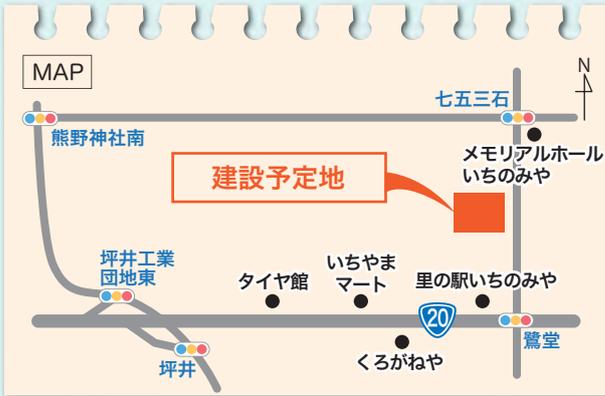
## 個室対応の ショートステイ



## 障がい者の働く場



## 地域の皆さんが 集える場



## 平成30年春 完成予定

### 【テーマ】

- ① 地域福祉の拠点となる施設計画
- ② 複合多目的利用できる施設計画
- ③ 親しみのある施設計画
- ④ 周囲の景観、環境に配慮した計画

本事業は、平成 28 年 3 月に厚生労働省が示した「**地域の実情に合った総合的な福祉サービスに向けたガイドライン**」にそって計画しています。  
※現在、『基本設計及び実施設計業務委託プロポーザル』を実施しています。  
詳しくは本会ホームページをご参照ください。

〈建設予定地〉 笛吹市一宮町竹原田 42-1

## 善意の寄付・寄贈の御礼

皆さまからお寄せいただいた寄付・寄贈は皆様方のご意向に沿って笛吹市の福祉のために活用されています。皆さまの温かいご協力ありがとうございます。

石和中学校PTA 様 [石和]

▶ 11,256円

山下真弥 様 [石和]

▶ のぼり旗用ボール44本

笛吹市赤十字奉仕団石和分団 様 [石和]

▶ プリンタ1台

笛吹市立御坂西小学校 様 [御坂]

▶ タオル164枚、日本手ぬぐい24枚、  
バスタオル1枚、石鹼98個

御坂町体育協会ゴルフ部 様 [御坂]

▶ 17,500円

笛吹市赤十字奉仕団御坂分団 様 [御坂]

▶ 10,000円

早河正弘 様 [一宮]

▶ 100,000円

望月君江(故) 様 [一宮]

▶ 200,000円

花柳彩三郎日本舞踊教室 様 [一宮]

▶ 100,000円

絆の会 様 [一宮]

▶ 20,000円

笛吹市ゴルフ連盟一宮支部 様 [一宮]

▶ スチームクリーナー1台、クリップライト1台、  
紙バッククリーナー1台

丸山高男 様 [一宮]

▶ 50,000円

浅川中学校 様 [八代]

▶ 石鹼268個、タオル140枚

八代町身体障害者福祉会 様 [八代]

▶ 5,000円

梶原いくよ 様 [八代]

▶ 手編みのマフラー、帽子、靴下等の手芸品30点

八代地区更生保護女性会 様 [八代]

▶ 20,000円

童謡をうたう会ふるさと 様 [春日居]

▶ カンタンタープ1張

でばん会 様 [春日居]

▶ 看板4枚

吉岡幸雄 様 [春日居]

▶ 50,000円

有限会社グッドケア 様 [甲府市]

▶ 車椅子5台

マックスバリュ東海株式会社 様 [静岡県]

▶ 車椅子1台

匿名希望 様

▶ 5,000円



※順不同になります。

# 「ふえぶき通信」障害者地域活動支援センター

レポート by 奈緒

## 「障がい者にとって利用しやすい交通手段とは？」 ～障がい者にとっても利用しやすい交通手段とは？～

視覚障がいがあるAさんと一緒に、笛吹市のデマンドタクシーに体験乗車しました。今までAさんも私も利用したことがありません。乗車して便利であれば、今後は利用できるといいなと思いました。

1 支援センターから最寄りの停留所まで一緒に歩いて行きました。道幅も狭く交通量も多いため、何度も立ち止まりながら進みました。



2 停留所に到着です。停留所の看板の形を触って確認します。



3 高さのデマンドタクシーの到着です。車高が高く、Aさんは自力で乗ることができません。



4 2人がかりの介助でちと乗ることができました。



5 降車場所の近くのスーパーマーケットに降りて欲しい、とお願いして買い物をしました。



6 もう少しで到着しますが、停留所のアナウンスがありません。Aさんは視覚障がいであるため、耳からの情報が頼りです。アナウンスがないので、降車の準備や心構えをするのができません。

7 スーパーマーケットに到着しました。乗車をしたので乗降口の形状は把握しています。乗車時よりスムーズに降りることができました。しかし車高が高いため、お尻をつきながら降りました。

Q 初めて乗ってみた感想を教えてください。

A 車高が高くて乗り降りが大変で、ひとりじゃ乗れないね。停留所のアナウンスが無いので、案内があれば助かるな。

Q 今後利用してみたいですか？

A 声かけとか案内があれば利用したい。

初めてデマンドタクシーに乗車して、気付いたことはたくさんありました。踏み台の設置や、声かけをしてもいいですね、とても助かる人がいます。ちよとした配慮で障がい者だけでなく、高齢者や子どもにも利用しやすいデマンドタクシーにはないかと感じました。

### デマンドタクシーとは…

笛吹市の予約制乗合タクシーです。事前に乗車する停留所と時間を予約し、予約した人同士が乗りあう公共の交通のことです。事前に利用者登録と利用の電話予約が必要となります。ふじみルートとみさかルートがあり、1回2000円乗車できます。

レポート by 慶

## 「放課後等デイサービスを見学しました！」

皆さんは、放課後等デイサービスをご存知ですか？

家族が増えている今、親が働いている子どもは、学校が終わったあと、放課後児童クラブ(学童保育)に行っています。

一方で、障がいのある子どもたちのほとんどは、放課後の活動として、放課後児童クラブではなく放課後等デイサービスを利用しています。



子どもに障がいがあっても、仕事をしたい… 専門の職員さんがいるところに安心して子どもを預けたい…



障がいのある子どもの放課後の居場所として、放課後等デイサービスがあります。

今、放課後等デイサービスの需要が高まって、事業所がどんどん増えています。それと同時に、放課後等デイサービスのあり方についての関心も高まっています。

### 『放課後等デイサービスを実際に見学してみたい！』

そんなお母さんたちの意見から、笛吹市自立支援協議会で、お母さんたちと一緒に4箇所の事業所を見学してきました！

4箇所の事業所は、雰囲気や特徴も様々でした。子どもの個々の特性を引き上げるために活動している事業所もあれば、集団での活動を主として特に協調性を大切にしている事業所もあり、事業所ごとに、活動や大切にしている想いが異なるということが分かりました。

安心して子どもを預けるためには、実際に事業所に足を運び、設備や通っている子どもたちの様子を見て、職員と話をして、子どもの障がいの特性や、家族の希望に沿った事業所を選ぶことが大切だと改めて感じました。

そして、4箇所の事業所に行き、色々な質問をしているお母さんたちの姿を見て、家族の力の大きさを感じました。私も、支援者として良い働き役になれるように、色々な事業所に足を運びたいと思います。